

Q3 発問づくりのポイントとは？

A 「学習活動で見いだしたこと(事実や事柄)」、「課題解決のための見通し(方法や手順)」、「判断したり結論づけたりした理由(根拠や理由)」など、学習活動に応じた意図的な問いづくりが大切です。

発問とは、わかっている人(教師)がわかっていない人(生徒)に対して発する問いのことです。

「なぜ」「どのように」のように、生徒の考えた「理由」や「方法」などを問うもので、答えが様々に分かります。発問を行う際には、何のために問うのかを明確にしておく必要があります。

<発問づくりに必要なこと>

- 教材研究を通して、理想状態(正解)が何かを見出す。
理想状態…授業終了後に「こうあってほしい」と思う姿
- 理想状態(正解)を問うための発問を考える。
- 発問を考えたら、その問いを生徒がどうしたらもつかを考える。
=子ども自身が認知的なズレを意識させる。

<ねらいごとの発問の例>

- 「事実や事柄」を問いたいとき→「このことから何がわかりますか。」
「それは何ですか。」
- 「方法や手順」を問いたいとき→「どのような方法でやればよいのですか。」
「この場合、次はどうしたらよいですか。」
- 「理由や根拠」を問いたいとき→「なぜそうなるのですか。」
「あなたはなぜそのように考えたのですか。」



Q 4 発問と質問の違いは？

A 発問は生徒の考えを対立、分化が生じ、対話や集団思考につながるものです。

質問は、既習事項などを確認するものです。

発問は、答えが分かれることで、考えの対立・分化から対話や集団思考につなげていきます。質問は、既習事項などを教科書などから読みとらせたり、資料から探させたりして確認させます。

子どもたちに何かを問うときに、「発問」か「質問」かをはっきりさせておくことが必要です。

	問いかけ	応答
発問	・健康を維持するためにどうしますか？	・栄養バランスの摂れた食事と適度な運動と十分な休養をとることを心がける →自分の言葉でまとめている
	・今後、あなたは健康のためにどのような行動を取りますか？	・早寝、早起きをして、朝ごはんを毎日摂るようにする。また、間食はなるべく減らし、毎日30分程度ウォーキングをする。 →自分の生活と照らし合わせて述べている
質問	・健康のために食事は大切ですか？	・はい →「はい」、「いいえ」などで容易に答えられる。
	・健康のために必要な五大栄養素は何ですか？	・たんぱく質、脂質、炭水化物、無機質、ビタミン →一問一答で既習事項などの確認をする。



Q5 教師の「指導言」には何がある？

A 「発問」「説明」「指示」「助言」があり、それらを意図的に使い分ける必要があります。

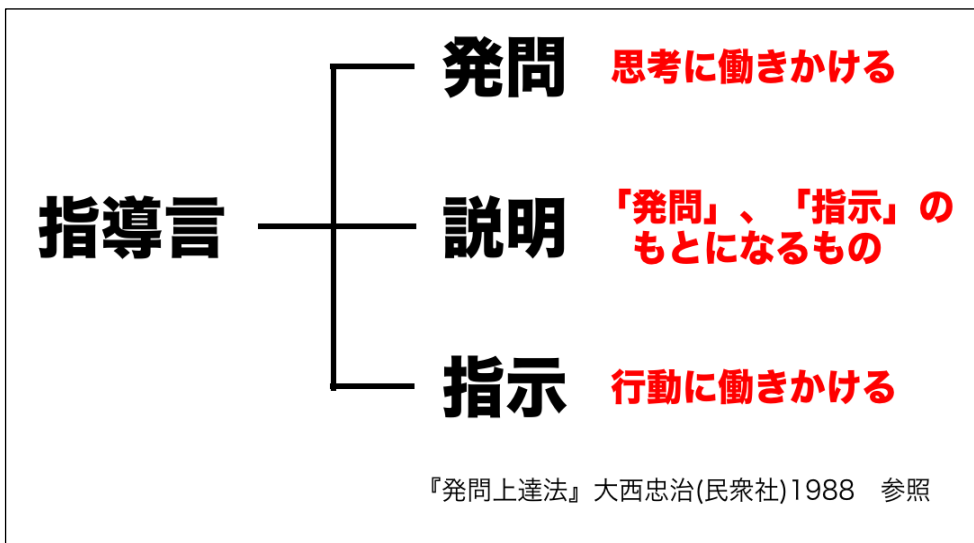
説明とは・・・子どもたちにとって未知の内容について、すでに知っていることなどを手がかりにしながら分かりやすく述べること

指示とは・・・子どもに行動、活動、作業などを要請してやらせること

助言とは・・・子どもたちの様々な活動の深化・発展を図る上で、役に立ちそうな言葉をかけること

学習課題に対して「発問」したほうがよいのか、「説明」したほうがよいのか、それとも「指示」したほうがよいのかを選ぶようにします。その際、【資料1】にあるように、課題に対してどのように向き合わせるのかを考えます。

【資料1】指導言の種類



文部科学省：『補習授業校教師のためのワンポイントアドバイス集』（2002）
石井英真：『授業づくりの深め方～「よい授業」をデザインするための5つのツボ～』ミネルヴァ書房（2020）
栗田正行著：『発問する技術』東洋館出版社（2017）
桔梗友行編著：『子どもの力を引き出す新しい発問テクニック』ナツメ社（2012）
大西忠治著：『発問上達法』民衆社（1988）